

# 自然史 かわらばん

No.3  
2013.4

## 第14回企画展 「毛皮展－かつては身近な存在でした－」の開催

つい30～40年前までは、私たちの身の回りに、防寒具あるいは装飾品として、野生動物や家畜の毛皮が普通に使われていました。しかし、そのほとんどは化学繊維などに取って代わられ、現在では本物の毛皮に接する機会が少なくなっています。

今回の展示では、当館に収蔵されている資料を中心に、県内に産する哺乳類の毛皮標本、外国産の装飾品の毛皮、実用品として利用されたものなどを展示しています。特に貴重な資料以外は、吊り下げたり、テーブルに載せたりして、実際に手で触れることができるよう工夫しました。また、毛皮の敷物に座ることができるコーナーもあります。他には、毛皮を虫眼鏡やCCDカメラで観察するコーナーや、その毛の表面を電子顕微鏡で撮影した写真も併せて展示しています。

## 身近な動物

ここで展示されている日本産哺乳類の毛皮資料の多くは、石川県内の道路で車にはねられて死んでしまった哺乳類を資料館職員が収集し、「なめし皮」標本にしたもので、最近特に多いのは、ハクビシンやタヌキなどです。

ネズミ類やモグラ類などの小型哺乳類の標本には頭骨がよく使われますが、毛皮も重要な資料として残されることがあります。今回は、八神徳彦氏の収集資料を陳列しました。

## 外国産動物の毛皮

展示した外国産の主な資料は、当館の前身であった「石川県自然史資料整備室」に寄贈された牛村繁男氏のコレクションです。ライオン・トラ・オオカミなど、今では保護されている動物で、ワシントン条約によって取引が規制されているものもあります。展示している資料の全ては、条約が批准された1980年よりずっと前に国内のデパートや海外などで購入されたものです。

## 利用してきた毛皮

毛皮を利用した歴史的な証拠として、約7万年前のネアンデルタール人の遺跡から、毛皮をなめすために用いた石器が出土しています。このように毛皮利用の歴史は古いものの、襟巻きやコート、ソファーの背あてなどに動物の毛皮が用いられ始めたのは、それほど昔ではありません。ましてや、軽くて温かい化学繊維を使った防寒具が普及したのは1970年以降からでした。

襟巻にはキテンの毛皮が好まれました。白山ろくで、全身の剛毛が黄色で綿毛が白いものを「ねじろ」と言い、数十年前でも「売ったら京都の本願寺へお参りにいく交通費になった」という話を聞いたことがあります。

白山のツキノワグマの毛皮は、胆のう（熊の胆）とあわせて獵師の副収入でした。今でも県内で、狩猟と害獣駆除によって年間50～100頭が獲られています。綿毛が豊かなカモシカの冬毛は、昔から日本の野生動物の中では、最高級の敷き皮と言われました。そのために、1925年に狩猟獣から除外されて以降も密猟が絶えませんでした。

人は、動物の肉を食べ、毛皮を着て育ち、文化を獲得

したとも言えます。私たちが鳥・牛・豚などを食べて革製品を使っていることと、毛皮を利用してきたことは、動物の命をいただいている、または自然の資源を利用しているという点では同じであると言えます。今回の展示をきっかけに、少し前まで自然の恵みの一つとして毛皮を利用してきた歴史を見直す機会になれば良いと思っています。

(水野昭憲)



敷物コーナーの様子

(ニホンカモシカとツキノワグマの毛皮)

## 第13回企画展報告

### 「ふえる ひろがる 新参者の植物たち —外来種ってなんだろう？—」

【場所】県立自然史資料館 2F企画展示室

【期間】平成24年6月23日(土)～12月16日(日)

ここでは、第13回企画展の報告と、展示制作を通じて新たに明らかになったことについて紹介します。本企画展では、石川県の外来植物の最前線を紹介し、外来種問題について考えるきっかけを提供することを目指しました。外来種とは、人間の活動にともなって持ち込まれ、もともとの生育地とは異なる場所で拡がった生き物のことです。

外来種は日本国内で毎年のように数が増加し、日本全体の植物種数の4分の1以上は外来種です。石川県にも、県内に生育する植物の約12%にあたる300種余の外来植

物が確認されています。特に、この最近15年間で約100種が新たに確認され、次々と外来種が侵入していることがわかりました。展示制作のための取材の中で、ハイコウリンタンポポ *Pilosella officinarum* F. Schultz & Schultz-Bip.を金沢市内の運動公園で発見しました。この植物は、まだ図鑑にも掲載されていない、日本に持ち込まれたばかりの外来種です。企画展では、それらの新着の外



展示会場の様子



展示取材中に発見した  
ハイコウリンタンポポ

## 5～9月の講座・イベント案内

### 第14回企画展 「毛皮展」 会期:5月6日(月)まで

- 5月 ■ 6日(土) バックヤードツアー — 資料館の裏側をのぞいちやおうー(1)  
13：30～15：30／館内／どなたでも／45名／4月4日より申込開始  
■ 6日(月) 大人のための植物観察会  
9：30～12：30／野外／高校生以上／15名／4月6日より申込開始  
■ 25日(土) 川の獣人ヤマセミを観察しよう  
10：00～12：00／野外／小4～大人／20名  
4月25日より申込開始

- 6月 ■ 22日(土) 初夏の風物詩ホタルを観察しよう  
19：30～21：00／館内外／小4～中3／16名  
5月22日より申込開始  
■ 30日(日) 大人のための植物学講座  
9：30～12：30／館内／高校生以上／20名  
5月30日より申込開始



### 第8回特別展 「ヘッセ昆虫展」 会期:7月6日(土)～9月1日(日)まで

- 7月 ■ 6日(土) 植物の色の秘密をしらべよう  
10：00～12：00／館内／小3～小6/16名／6月6日より申込開始  
■ 20日(土) 私だけの星空 — 簡易プラネタリウム作りー  
13：30～15：30／館内／小4～小6／20名／6月20日より申込開始  
■ 27日(土) チョウやトンボの標本をつくろう  
10：00～15：00／館内外／小4～中3／16名／6月27日より申込開始
- 8月 ■ 3日(土) ライトトラップで色んな昆虫を採集しよう  
19：00～21：00／野外／小1～中3／20名／7月3日より申込開始  
■ 10日(土) くわしこどり!? 夏の大三角(1)  
10：00～12：00／館内／小1～大人／25名／7月10日より申込開始  
■ 10日(土) くわしこどり!? 夏の大三角(2)  
13：30～15：30／館内／小1～大人／25名／7月10日より申込開始



来種を紹介するコーナーを設けました。新着外来種には、オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* L. や、ナルトサワギク *Senecio madagascariensis* Poir. といった特定外来生物も含まれていました。

特定外来生物は、平成17年施行の外来生物法によって指定された、在来の生物や生態系に害を及ぼす可能性が高い生物です。県内に侵入している特定外来生物のうち、オオカワヂシャ、ナルトサワギク、オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* L.、オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata* L. の4種については、環境省より特定外来生物飼養の許可を得て、実物を栽培展示しました。これらの特定外来生物や、有用な蜜原植物のハリエンジュ(ニセアカ

シア) *Robinia pseudoacacia* L.、白山スーパー林道開設によって侵入した外来植物などの県内の事例を取り上げて、外来生物が引き起こす問題や対策について紹介しました。

今回の企画展を通して、来館者からは外来生物への理解を深めることができたという御意見を多くいただくことができました。身近な環境問題として外来生物に関心をもっていただくという目的を達成することができたことに加えて、県内の外来植物の現状を整理し、新たな知見を得る機会が得られたことは望外の喜びです。

(中野真理子)

## 自然史資料館の調査研究活動(動物分野)

調査を行った内灘海岸の風景

### 石川県の海浜性ハンミョウ類の調査

能登半島を有する石川県には、砂浜が沢山あります。砂浜と言えば、貝類や甲殻類（カニやエビの仲間）などの動物を思い浮かべる方が多いかと思いますが、ハンミョウという昆虫も砂浜の住人であることをご存知でしょうか？砂浜に生息するハンミョウは「海浜性ハンミョウ類」と呼ばれ、打ち上げられた動物の遺骸や浜の小動物を食べて暮らしています。イカリモンハンミョウ（県・国ともに絶滅危惧I類に指定）に代表されるように、海浜性ハンミョウ類は環境の変化に敏感で、石川県だけでなく全国的に数が減っています。自然史資料館では、2012年の夏から秋にかけて、石川県博物館協議会の助成を得て、まず内灘町を中心としたハンミョウ類の調査を行いました。

その結果、海浜性のハンミョウであるハラビロハンミョウ、他にはコニワハンミョウ、エリザハンミョウ、コハンミョウなどが内灘海岸に現在も生息していることがわかりました。内灘海岸におけるハンミョウ類の記録は20年以上前に遡り、最新の生息状況はわ



ハラビロハンミョウ  
(県ふれあい昆虫館福富宏和氏採集)

かっていました。ハラビロハンミョウは、石川県では絶滅危惧I類、国では絶滅危惧II類に指定されている種類です。一方、かつて内灘海岸に生息していたイカリモンハンミョウは、この地域では既に絶滅したと言われており、今回の調査でもやはり生息は確認されませんでした。

今回調べた内灘海岸も、他の海岸と同様に砂浜への車両の乗入が少なからず見られ、ハンミョウにとっての生息環境は必ずしも良いとは言えません。今後も、共同で調査を行っている県ふれあい昆虫館と協力して、石川県の砂浜に暮らすハンミョウたちを見守っていきたいと思います。

(嶋田敬介)



■表記は、実施時間／活動場所／対象／定員／申込期間の順です。

■電話でお問い合わせください。

■詳細は当館にお問い合わせいただか、ホームページをご覧ください。

申し込み TEL : 076-229-3450

当館HP : <http://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



8月

- 11日(日) ペットボトルで顕微鏡ができる? 一小学校高学年 - 10:00~12:00 / 館内 / 小4~小6 / 50名 / 7月11日より申込開始
- 11日(日) ペットボトルで顕微鏡ができる? 一小学校低学年 - 13:30~15:00 / 館内 / 小1~小3 / 50名 / 7月11日より申込開始
- 18日(日) 押し葉で植物ずかんをつくろう  
9:30~12:00 / 館内外 / 小4~高3 / 20名 / 7月18日より申込開始
- 24日(土) かっこいい甲虫標本をつくろう  
13:30~15:30 / 館内 / 小4~中3 / 16名 / 7月24日より申込開始
- 25日(日) ふわふわ雲の模型を作っちゃおう  
13:30~15:00 / 館内 / 幼稚園・保育園年長~小3 / 15名 / 7月25日より申込開始

9月

- 自然史講演会「有孔虫のはなし」 講演日：9月16日(月) 14:00~16:00 会場：自然史資料館 申込不要
- 29日(日) 浅野川で石さがし  
13:30~15:30 / 野外 / 小4~高3 / 20名 / 8月29日より申込開始

## 日食をみたよ！一小学校との連携イベント

2012年5月21日は、日本中が天体ショーに沸いた一日でした。国内では1987年の沖縄以来、本州では1883年以来129年ぶりに「金環日食」が見られるということで、盛り上がりを見せっていました。

日食とは、太陽・月・地球が一直線上に並んだときに生ずる現象で、太陽と月の見かけの大きさの違いによって、皆既日食と金環日食になります。

私たちの住んでいる金沢では、残念ながら部分日食でしたが、様々な施設で観測会が催されました。

自然史資料館でも、周辺の東浅川小学校、湯涌小学校・芝原中学校との連携イベントとして、日食観測会を実施しました。特に東浅川小学校では、事前に日食メガネづくりも行い、日食観測時の注意点と一緒に学びました。日食当日は、早朝から全校児童が登校し、学校のグラウンドで観測会が実施されました。資料館スタッフが、天体望遠鏡を2台準備し、望遠鏡を使った太陽観測をしたところ、児童たちは目を輝かせるようにして太陽投影板を覗き込んでいました。他には、木漏れ日や自分の指を交差させてつくった影で太陽の形の変化を楽しんだり、日食の進行状態による気温の変化を実感していました。

自然史資料館としては初めての天体観測イベントとなったわけですが、今後も子供たちが興味を持って取

り組むことができるようなイベントを実施していくたいと思っています。

(北村栄一)



日食メガネで観測



太陽投影板を見る児童

### 利用案内

■開館時間：午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
■休館日：12月29日～1月3日

■入館料：無 料

■駐車場：完 備 (大型バス駐車可)

### 交通案内



#### 【バスをご利用の場合】

○金沢駅東口バスターミナル3番乗り場

『12 湯涌温泉ゆき』→【銚子口下車】→徒歩約10分

『12 北陸大薬学部ゆき』→【銚子口下車】→徒歩約10分

『12 北陸大太陽が丘ゆき』→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分

○金沢駅東口バスターミナル6番乗り場

『95 北陸大太陽が丘ゆき』→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分